

仕 様 書

1. 件名：飛散防止カバー排気ダクト延長及び凍結防止ヒーター設置作業

2. 研究の概要

国立研究開発法人産業技術総合研究所（以下、「産総研」という。）福島再生可能エネルギー研究所では、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）・グリーンイノベーション基金「水電解装置の評価技術の確立／再生可能エネルギーシステム環境下での水電解評価技術基盤構築」（実施期間：2021年度-2025年度）のプロジェクトで、水電解装置の評価基盤設備の構築を検討している。ここでは、水素発生量や発生圧力など幅広い水電解セルスタック・水電解システムを対象とし、様々な性能評価（加速劣化・耐久性・応答性等）が行える水電解評価における一大拠点の形成を目指している。

3. 作業の概要

飛散防止カバーのエア排気ダクト及び窒素排気管の排出口位置が現状低く安全上問題となる可能性があるため上方に延長する。また水電解装置の排気管に凍結防止対策としてヒーター及び保温材を設置する。

4. 作業の構成

4-1: エア排気ダクト延長

4-2: 窒素排気管延長

4-3: 水電解装置排気管保温材及び凍結防止ヒーター設置

5. 構成別仕様詳細

5-1: エア排気ダクト延長

5-1-1: 既設エア排気ダクトを解体し、既設排気ポンプから建屋屋根上部までエア排気ダクトを延長すること（別紙1参照のこと）。

5-1-2: 延長するエア排気ダクトはガルバリウム鋼板とすること。

5-1-3: エア排気ダクトへは防虫網を設置すること。

5-1-4: エア排気ダクトは支持金具を使用し建屋外壁及び屋根に適切に固定すること。

5-2:窒素排気管延長

5-2-1:窒素排気管を上部へ延長すること（別紙1参照のこと）。

5-2-2:延長する窒素排気管は硬質塩化ビニル管とすること。

5-2-3:窒素排気管へは防虫網を設置すること。

5-2-4:窒素排気管は支持金具を使用し適切に建屋外壁に固定すること。

5-3:水電解装置排気管保温及び凍結防止ヒーター設置

5-3-1:既設水電解装置排気管（飛散防止カバー外壁から建屋内壁までの水素排気管、酸素排気管、ベント排気管）を不燃性保温筒（アルミガラスクロス被覆ガラスウール等）にて保温すること。

5-3-2:既存電源盤（AC100V）より配線を行い、自己制御型ヒーターを設置し、絶縁抵抗等電氣的な安全確認後試運転を行うこと。

6. 納入物品

工事写真（作業前、後）1部（紙媒体）

完成図 1部（紙媒体）

作業実施報告書（作業実施前後の写真を含む） 1部（紙媒体）

7. 納入及び履行場所

〒963-0298 福島県郡山市待池台 2-2-9

国立研究開発法人産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所
実証フィールドB区画 水電解装置評価棟 2

8. 納入の完了

据付調整の後、「6. 納入物品」に記載された納入物品が過不足なく納入され、仕様書を満たしていることを確認して、納入の完了とする。

9. 納入期限

2025年3月21日

10. 付帯事項

10-1:本仕様書の技術的内容及び知り得た情報については、守秘義務を負うものとする。

10-2:本仕様書の技術的内容に関する質問等については、調達請求者と協議すること。また、本仕様書に定めのない事項及び疑義が生じた場合は、調達担当者との協議のうえ決定する。

10-3:納入の完了後1年以内の故障・不具合については、その修理・調整作

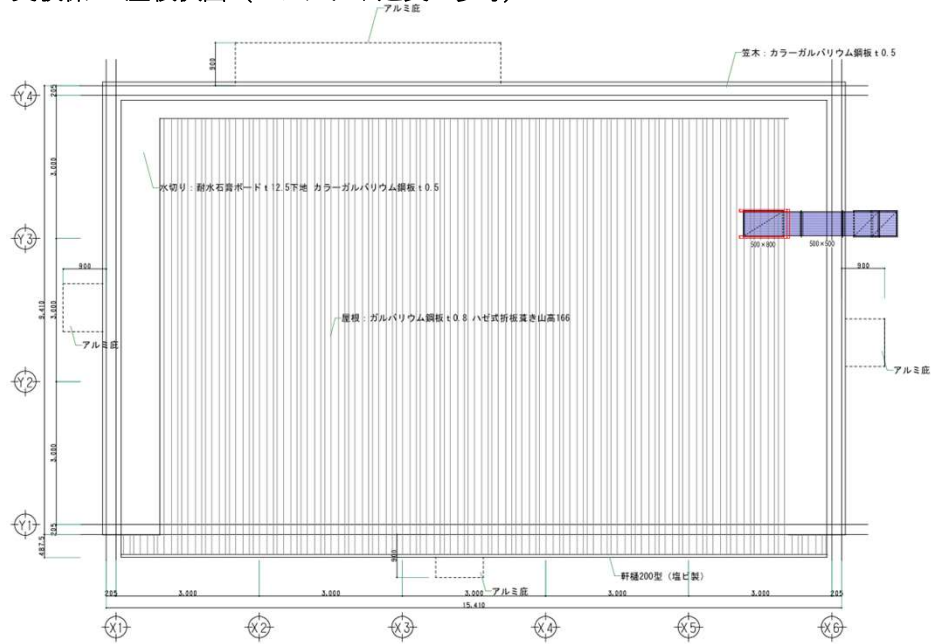
業等が無償で実施すること。

10-4: 請負者の責において及ぼした損害は、請負者が賠償すること。

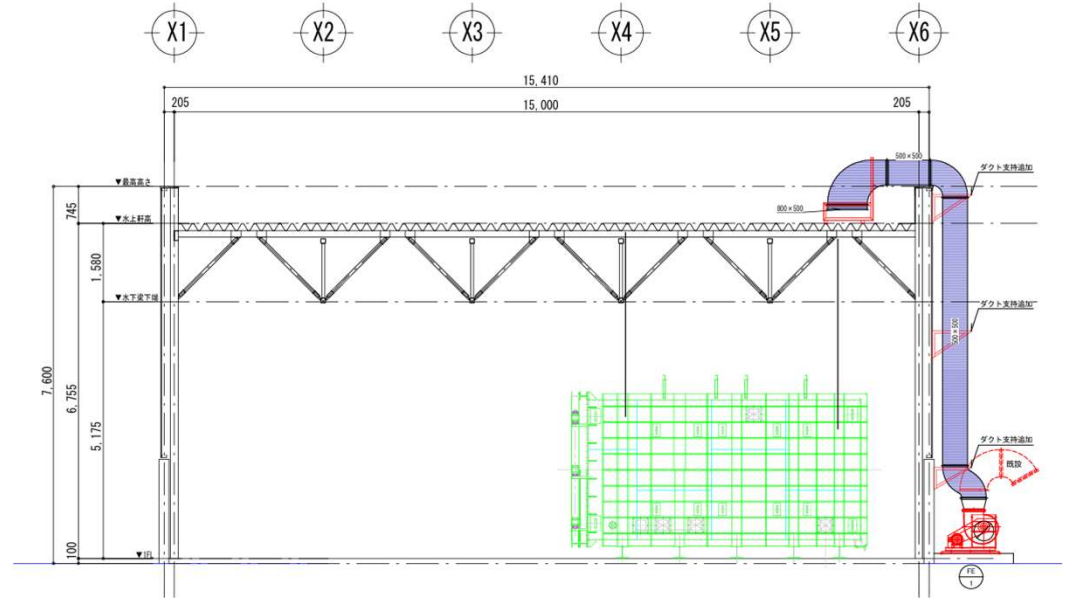
10-5: 本作業において発生した不用品は請負者が持ち帰り適切に処理すること。

飛散防止カバー排気ダクト延長

実験棟2 屋根伏図 (エアダクト延長 参考)



実験棟2 東面断面図 (エアダクト延長 参考)



実験棟2 南立面図 (窒素排気塩ビ管延長 参考)

